研究推進部

令和５年度　校内研究について

（１）研究主題

研究主題	**「思いや考えを自分の言葉で表現できる児童の育成」** －国語科を中心とした「書くこと」の指導法の工夫を通して－

※　わかくさ学級については書くことや、思い・考えを表出するための指導研究を行う。

（２）研究主題設定の理由

１.学校教育目標の具現化から、本校では、
◎「よく考えて　すすんで学習」（知）
○「人に親切　仲良く協力」（徳）
○「強い体　やりぬく心」（体）
を教育目標に掲げ、 日々の教育活動を行っている。本主題は、国語科の「書くこと」の領域の中で「よく考えて　すすんで学習」（知）を具現化し、思考力、表現力を高めようとするものである。

２．これまでの研究から

本校では長年国語の研究に取り組んでいる。平成２９年度から令和４年度までは、文学的文章の指導法の研究に取り組んできた。叙述をもとに、対話的な学びを工夫すること、言葉にこだわり課題設定を工夫することなど、思考力・判断力・表現力の育成を図ってきた。

昨年度は、年間講師として田中延男先生にご教授いただき、「第一課題」「第二課題」を設定する新しい授業展開と課題設定の方法について取り組んだ。

その中で、対話の中で学びが深まっていたとしても、その学びや考えを書いて表出する点において、どの分科会でも課題となった。①目的に応じた文章を書く意識や技能の低さ、②考えや思いを適切に表すための語彙の不足、③正しく構成や推敲を行うことを通してより良い文章にしようとする姿勢や知識の未定着等である。以上のことから、今年度からは「書くこと」に焦点を当て、今までの取組を生かしながら研究を深化・発展させていく。

そこで、主題における「自分の言葉で表現する」ことについて、相手や目的に応じて、自分の思いや考えを伝えるために必要な語彙を選択し、表現すると位置付けた。そのために、「書くこと」に対する苦手意識を軽減し、「書くこと」への意欲をもたせていく。

次に、「書くこと」における指導の観点（題材設定(目的)、構成、考えの形成、記述、推敲（→記述））を定め、指導項目を焦点化したり、それぞれの指導項目で書く力を高めるための手立てを工夫したりして、実践及び検討していく。

研究構想図

教育目標より

よく考え　すすんで学習する

＜児童の実態＞
・語彙や表現方法の定着がなく、自分の考えを書き表す技能に課題がある。
・相手や目的意識が低く、十分に構成や考えの構築のないまま書こうとする。
・推敲する力が低い。

＜令和５年度の研究の課題＞
・考えや思いを適切に表すための「書くこと」の技術や知識不足によって正しく伝えられない。
・作者や第三者の視点に立って説明的文章を書く際に戸惑い、適した文法で書き表せない。

＜新学習指導要領の告示から＞
・各教科等の目標及び内容が、育成すべき資質・能力の三つの柱で整理された。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善が求められた。

＜教師の願い＞
・自身の考えをもち、適切に表現してほしい
・豊かな語彙や表現を用いて、書いて表現することの良さを感じてほしい。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を研究していきたい。

「思いや考えを、自分の言葉で表現できる児童の育成」

－国語科を中心とした「書くこと」の指導法の工夫を通して－

＜主題に基づく研究仮説＞
学習の目的や過程を明確化することで、自分の考えもち、自分の言葉で表現する意識が高まるのではないだろうか。

＜目指す児童像＞
（低学年）経験したことや想像したことなどから、書くことを見つけ、正しく表現できる児童
（中学年）相手や目的に応じて自分の考えをもち、適切に表現できる児童
（高学年）目的や意図に応じて自分の考えを明確にし、分かりやすく表現できる児童
（全学年）学習したことを基に、すすんで本を読んだり、考えを深めたりすることができる児童

Ａ：主題に迫る手立て

① 意欲を高める工夫
② 学習過程の工夫
③ 全員が書けるための工夫
④ 読書活動・図書館活用につなげる工夫

Ｂ：言語環境の整備

・『言葉のコーナー』の設置
・日常的な言葉を豊かにする活動の充実（言葉のコーナー、辞書の意識的活用など）
・読書活動推進のための工夫
（読書旬間の設定、読書の木など）